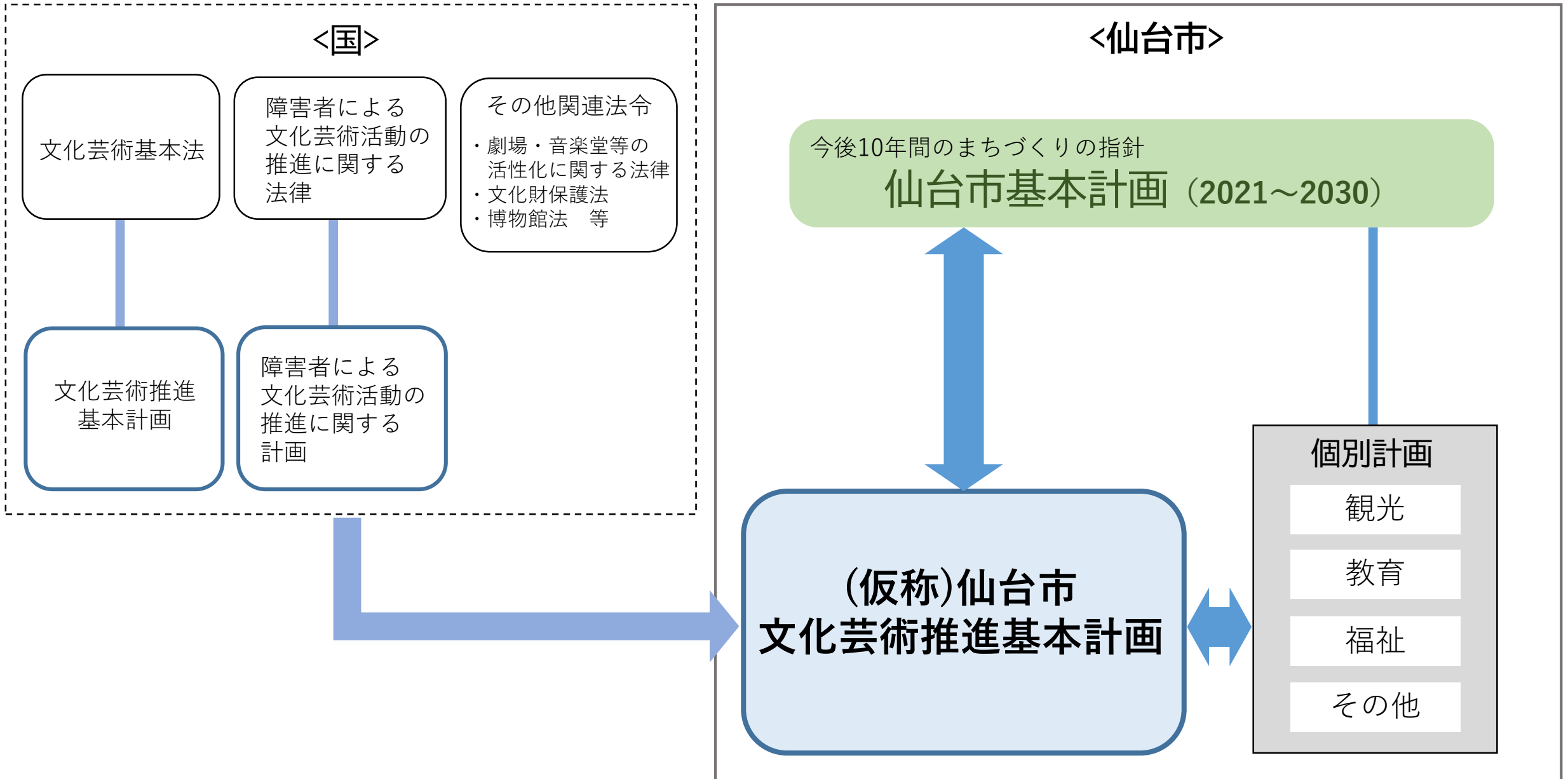


(第1回懇話会資料より要約)

- ・ 本計画の位置付け
- ・ 仙台市の文化芸術の取組み
- ・ 仙台市の文化芸術環境の現状

本計画の位置づけ



仙台市基本計画での位置づけ

【仙台市基本計画】

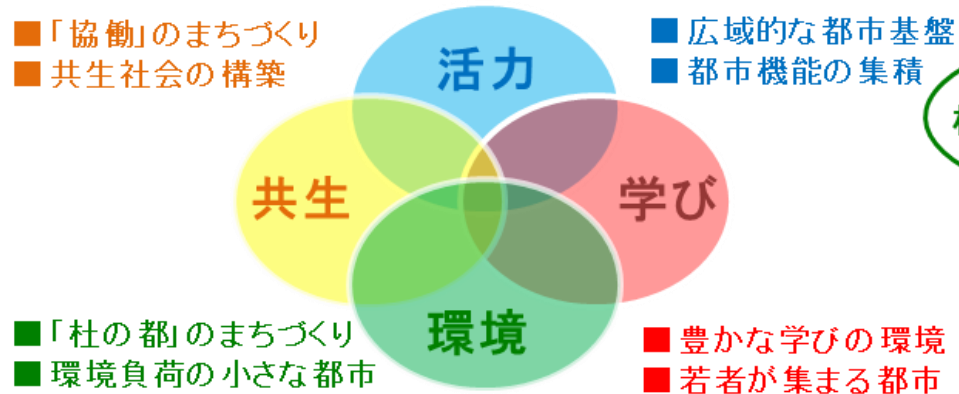
○まちづくりの理念

挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City”SENDAI～

○計画期間

令和3（2021年）年度～令和12（2030）年度（10年間）

【目指す都市の姿を実現するための強み】



【目指す都市の姿】

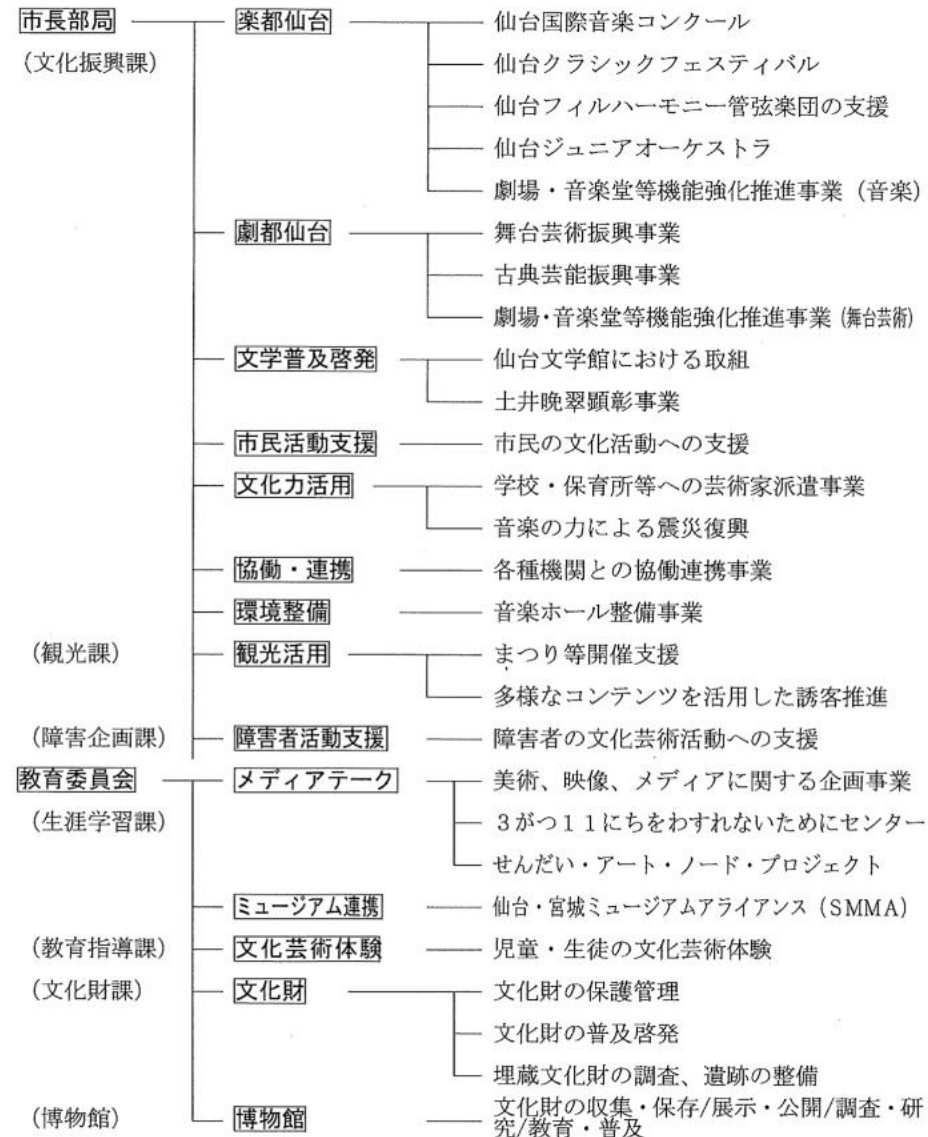


※都市個性としての「環境」「共生」「学び」「活力」すべてに、文化芸術は貢献している

仙台市の文化芸術の取組み(1)

仙台市の文化芸術振興の取組について

1 現在の文化芸術振興の取組



(1) 楽都仙台・劇都仙台

仙台国際音楽コンクール、仙台クラシックフェスティバルなどの音楽事業や仙台フィルハーモニー管弦楽団の活躍、また、「せんだい演劇工房10-BOX」や別館「能-BOX」を拠点とした舞台芸術や古典芸能の振興事業を通じて「楽都」「劇都」を推進してきました。

市民協働で培ってきたこれらの都市個性をさらに磨き、まちの魅力向上につなげていくことが求められます。

(2) 震災復興過程における文化芸術活動

東日本大震災後、演奏家や演劇人たちが被災地を訪れ、行ってきた「復興コンサート」などのアウトリーチ活動は被災された方々の心の復興を支えてきました。

また、震災という大きな出来事に向き合い、ともに考えるためのプラットフォームとして「3がつ11にちをわすれないためにセンター」がせんだいメディアテークに開設されています。

これらの活動を通じて再認識された文化芸術の力を今後、復興支援のみならず、福祉、教育、まちづくりなど、様々な社会課題の解決に活かしていくことが期待されます。

(3) まつり・多様なコンテンツ

仙台市には、「仙台・青葉まつり」「仙台七夕まつり」「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」「みちのくYOSAKOIまつり」「SENDAI光のページェント」などの市民主体による大型イベントに加え、「ジョジョの奇妙な冒険」や「BLUE GIANT」などの仙台を舞台とした漫画・アニメ、映画ロケ地など、国内外からの集客が期待できる多様なコンテンツがあります。

これらのコンテンツはこれからの文化観光において大きな目玉となることが期待されます。

仙台市の文化芸術の取組み(2)

(4) 障害がある方や子どもたちに向けた取組み

障害者を対象とした仙台フィルのオーケストラ公演や障害者による絵画の公募展等を市や市民主体の事業として展開しています。

また、児童生徒を対象とした仙台フィルのオーケストラ公演や劇団四季のミュージカル鑑賞会などを実施しています。

今後も多様なニーズを的確に把握し、様々な主体と連携しながら、障害がある方や子どもたちが文化芸術に親しむことのできる環境づくりを進めていきます。

(5) 美術・映像・メディアに関する取組み

美術や映像文化の活動拠点、また、すべての人々がさまざまなメディアを通じて情報のやりとりを行えるよう支援する生涯学習施設である「せんだいメディアテーク」では、一年を通じて様々な展示・上映・ワークショップなどを行っています。

市民の方との学び・対話を通じて、これからも最先端のサービスを提供できる施設として発展を図っていきます。

(6) 社会課題と現代アート

全国的に、現代アートが展示室を出て、実際に社会と接点を持って、展開する活動に期待されて久しく、本市においては、様々な政策課題（復興、環境問題、市街地活性化など）に、アートの手法を通して課題の顕在化に取り組む「せんだい・アートノード・プロジェクト」を実施しています。

(7) 歴史

仙台市には、伊達政宗公が築いた歴史と地域で育まれ今に受け継がれる伝統的な文化があります。

また、旧石器時代・縄文時代の遺跡が数多くあるほか、戦災、震災からの復興など、全ての過去が今の仙台につながっています。これらの歴史や様々な視点で記された記録を学び・共有し、未来へ伝えていく取組みを続けていくことが必要です。

(8) 文化施設

仙台市では、市民の方が歴史や文化芸術に触れ、学び、親しむ場として、仙台市博物館、仙台文学館、せんだいメディアテーク等のミュージアム系施設、仙台市青年文化センターや各区文化センター等のホール系施設の整備を進めてきました。

市内では固定座席、固定舞台を持つホールでは1,590席の宮城県民会館が最大で、大規模のホールがないことが長年の課題となっており、現在、様々な実演芸術の活動を可能とする新たな2,000席規模の文化芸術の総合拠点整備の検討を進めています。

仙台市の文化芸術環境の現状（1）

（枠内は第1回懇話会資料7から要約）

1. 仙台市の人口動態

- 昼夜間人口比率が比較的高い仙台市は、通勤・通学圏を背景に広く抱えている分だけ、人口規模を上回る集客力が期待でき、文化芸術の興行や展示などのイベントが実施しやすい環境にある。
- 文化芸術活動は、多様な専門サービス業の支えの上に成り立つものであり、その発展には第三次産業の集積が欠かせないが、本市はその比率が高い。

➤ 本市は都市の特性上、文化芸術活動が実施しやすい環境にあると考えられる。

2. 文化関連の就業者数

- 文化関連の就業者数の推移をみると、全国・仙台市ともにその数は増加傾向にあるが、総人口に占める割合（R2年度）は全国平均を若干下回る。（全国：0.51%、仙台市：0.49%）

➤ 本市における文化関連（※）の就業者数は約5000名程度。

※集計対象の業種：デザイナー、個人教師（音楽）、写真家・映像撮影者、記者・編集者、音楽家、彫刻家・画家・工芸美術家、図書館司書・学芸員、舞踏家・俳優・演出家・演芸家、著述家、個人教師（舞踏家・俳優・演出家・演芸家）

仙台市の文化芸術環境の現状（２）

（枠内は第1回懇話会資料7から要約）

3. 文化施設の状況

- 市内に立地する主要ホールは、東北6県中、最大の人口を抱える宮城県のみ2000席クラスのホールを有していない状況。
 - また、市内の主要施設の老朽化も進行しており、文化施設のあり方は大きな課題。
- 活動場所の確保に当たっては、市内の主要施設の老朽化を踏まえた対策を進めることが重要。
- 本市が進める音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点との複合施設整備は、本市の文化芸術面での一層の発展につながる大きな契機になるものと考えられる。

4. 舞台・音楽芸術の公演回数等

- 宮城県は全都道府県中、音楽公演回数で8位、舞台芸術公演回数で10位に位置するなど、比較的大きな市場があると言える。
 - 東北6県の合計に占める宮城県の割合は、公演回数で音楽56%、舞台芸術57%、動員数で音楽62%、舞台芸術54%であり、他の5県の合計を上回る大きな規模を有する。
- 文化芸術の側面においても、東北地方において拠点性を有し、東北一円を牽引する役割を担う必要があるものと考えられる。
- 公演の一層の充実は、市民が文化芸術に触れる機会の増加とともに、交流人口の拡大にも寄与するものと考えられる。